# 第Ⅱ章　整備に伴う調査の概要

## 第１節　行者塚古墳

**調査経過**　行者塚古墳の発掘調査は、平成７(1995)年７月から翌年４月にかけて、加古川市西条古墳群史跡整備委員会の下部組織にあたる発掘調査専門部会によって実施された。

調査方法を検討するにあたっては、事前に墳丘や周濠部に物理探査を実施し、そこから得られた情報をもとに入念な調査計画が立てられた。墳頂部には地中レーダー探査、磁気探査、電気探査を行い、主体部に棺が３基あることや、大量の鉄製品が埋蔵されている可能性が示され、墓壙の規模も大まかに把握することができた。周濠部周辺では、電気探査の結果、造り出しが４つ存在することがわかり、おおよその墳裾の位置も把握できた。

これらの情報をもとに、合計13箇所の調査区が設定され調査が行われた。その結果、史跡整備に必要なほぼすべての情報を得ることができたほか、古墳時代研究に重要な意味を投げかける多くの発見があった。以下に、発掘調査の結果について概要を述べる。

**基礎情報**　調査の結果、行者塚古墳は４つの造り出しを持つ前方後円墳で、周濠と外堤を伴い、以前の調査でも確認されていたが、後円部側には外堤の外側に外周濠が巡っていたことが確かめられた。墳頂の主体部は、墓壙内に粘土槨を構築した埋葬施設を持ち、合計３体埋葬されていることを確認した。

墳丘の全長は約100ｍあり、後円部の径は約68ｍ、前方部の幅は約55ｍを測る。後円部の高さは9.3ｍで、３段築成の墳丘斜面にはこの地域で産出する良質の流紋岩質凝灰岩、いわゆる「竜山石」を中心とする葺石が施され、各段のテラスには埴輪列が巡っていた。各段の高さは場所によって差異があるものの、第１段と第２段がそれぞれ1.6ｍ前後で、後円部の第３段は約6.1ｍと飛びぬけて高くなる。周濠の幅は約14ｍで、その外側に幅５～６ｍの外堤を持ち、後円部側ではさらに外側に幅約８ｍの外周濠を確認した。墳丘には４つの造り出しを伴い、それぞれ長方形を呈するが規模は異なる。上面は第１段テラスよりやや低い位置に設けられ、各斜面には葺石が施されていた。

出土した埴輪や副葬品から、５世紀前葉の築造と推測される。

**造り出し**　４つの造り出しのうち、西造り出しは全面的に調査が実施され大きな成果を挙げた。規模は、北辺と南辺が９ｍ、西辺と東辺が約14ｍで、上面縁辺部には円筒埴輪列が長方形に巡り、墳丘側（東辺側）のみ列をずらして食い違いにすることによって入口部を設けていた。埴輪列内部の中央東寄りでは家形埴輪が８個体以上出土し、西寄りでは小型の土師器と食物を模した土製品が多数出土した。造り出しで行われた祭祀の様子が詳細に復元できる貴重な発見であり、後の整備においても重要な観察エリアとなった。また、造り出し北辺と後円部裾との間は谷部になっており、そこから囲形埴輪が出土したことも重要な発見である。

北西造り出しは、部分的な調査であるが長さ11.5ｍ、幅９ｍ、高さ約１ｍに復元でき、方形埴輪列に囲まれた内部で、西造り出しと同様の土器を用いた供献祭祀が行われた痕跡を確認した。食物を模した土製品は出土していないが、外面全体に刺突文が施された椀形の土器が注目される。

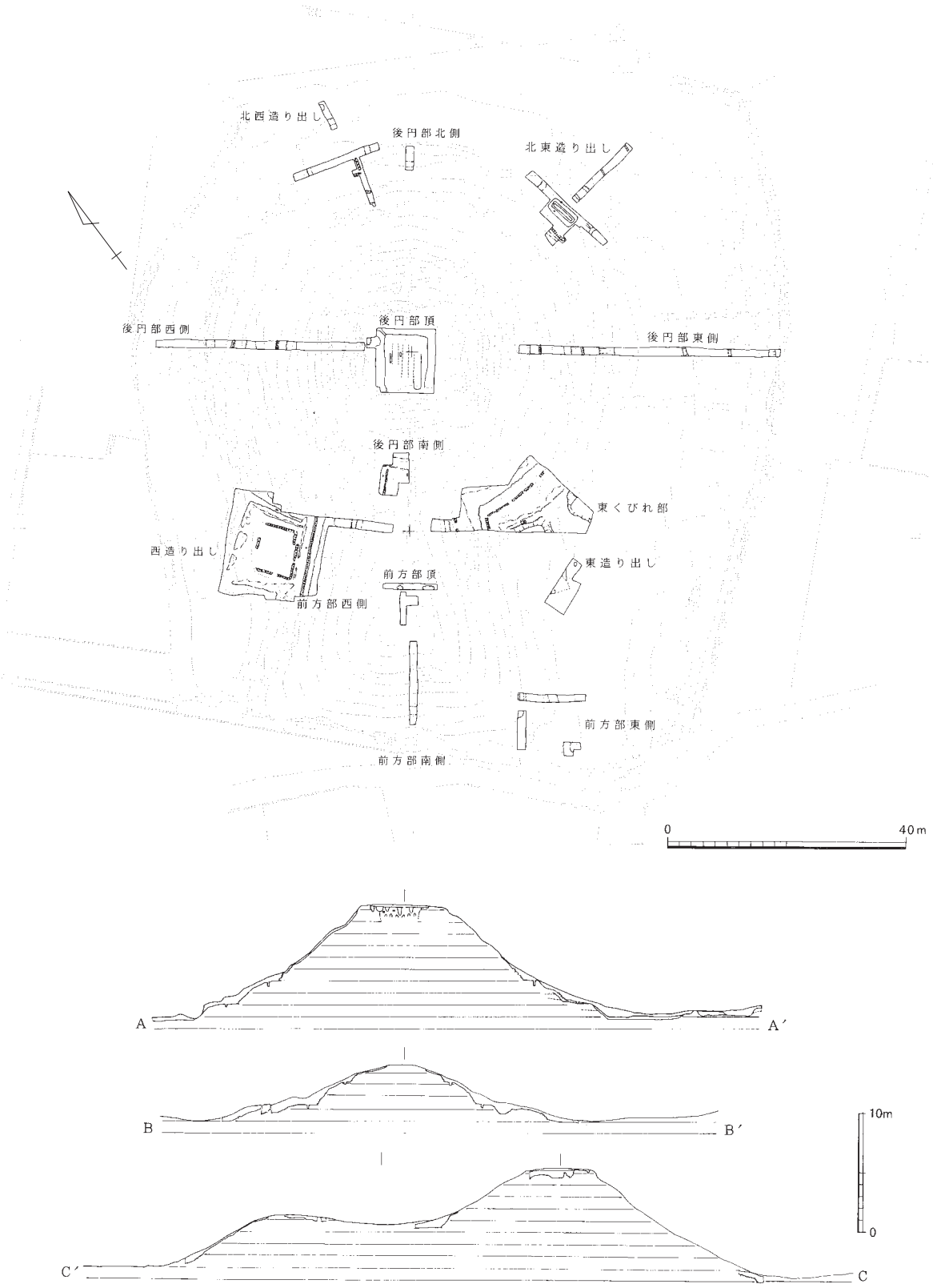
北東造り出しは、同じく部分的な調査を行った結果、長さ12.5ｍ、幅8.5ｍ、高さ約１ｍに復元できた。縁辺に方形埴輪列が巡るのは他と同様であるが、上面中央部からは家形埴輪５個体以上のほか、盾形埴輪、甲冑形埴輪、靫形埴輪などが出土し、勾玉２点なども発見された。さらに、調査前の電気探査で指摘されていたとおり、これら遺物群の下から粘土槨に覆われた埋葬施設が検出された。槨内の木棺は未調査のため副葬品については不明だが、西造り出しの遺物群との内容の違いが、造り出しの機能の違いと関連しているものと考えられ注目される。

東造り出しは、ごく一部しか調査していないものの、長さ13ｍ、幅7.3ｍの規模と推定される。蓋形埴輪などが出土したが、造り出しの機能を検討するほどの調査範囲ではなかった。ただし、北辺と後円部裾の間に設けられた谷部からは、囲形埴輪と家形埴輪がセットで出土し、また付近からは樋形土製品も見つかっており、西側谷部出土の囲形埴輪も含めて、谷部での祭祀を理解する重要な材料が得られた。

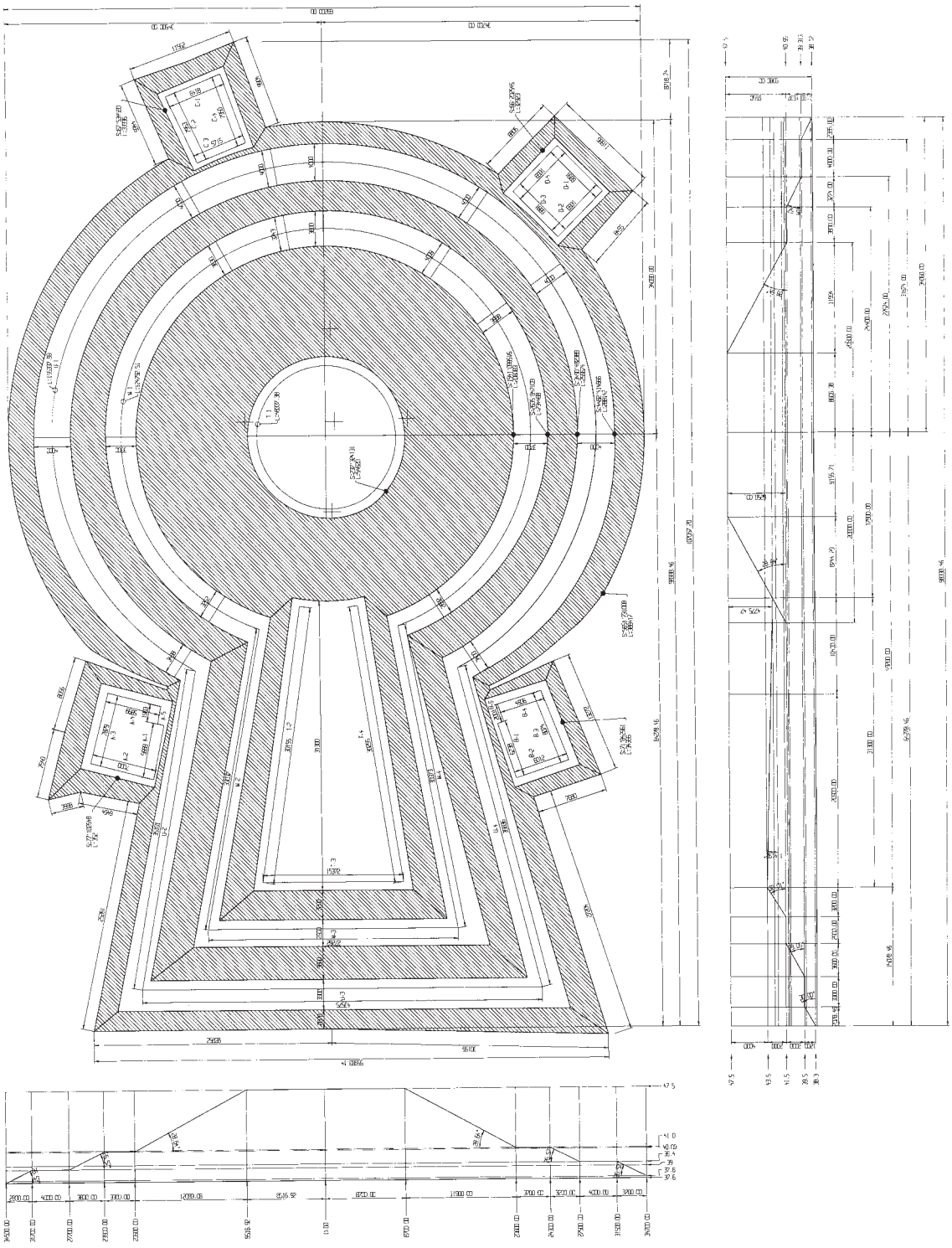
**墳頂部**　事前の物理探査により墓壙のおおまかな範囲が把握できたため、その範囲を覆うように調査区を設定して調査を行った。その結果、墳頂部には７ｍ×9.75ｍ以上の長方形の墓壙が設けられていることがわかり、上面には４ｍ×５ｍ以上の長方形の方形埴輪列が巡っていたことがわかった。墳頂の埴輪列には鰭付の円筒埴輪が用いられていた。埴輪列の内部からは複数の家形埴輪と盾形埴輪、甲冑形埴輪などの破片が出土した。

墓壙内を調査した際には、地表から0.5ｍから0.6ｍほどの深さで大量の副葬品を納めた副葬品箱を２箇所で発見した。被葬者を埋葬後、墓壙を埋戻している途中で置かれたものと考えられ、中央付近には長さ約0.8ｍ×幅約0.25ｍに復元できる箱、西側には長さ約1.5ｍ×幅約0.35ｍに復元できる箱が配置されていたものと考えられる。中央の箱からは、鍍金された帯金具一式、馬具（轡）、鋳造鉄斧、青銅製品などが出土し、西側の箱からは、鉄製の各種農工具、鉄鋌約40枚、鉄製の各種武器・武具、巴形銅器４点、鋳造の鉄鍑などが出土した。中国や朝鮮半島からの舶載品を多く含むのが特徴である。

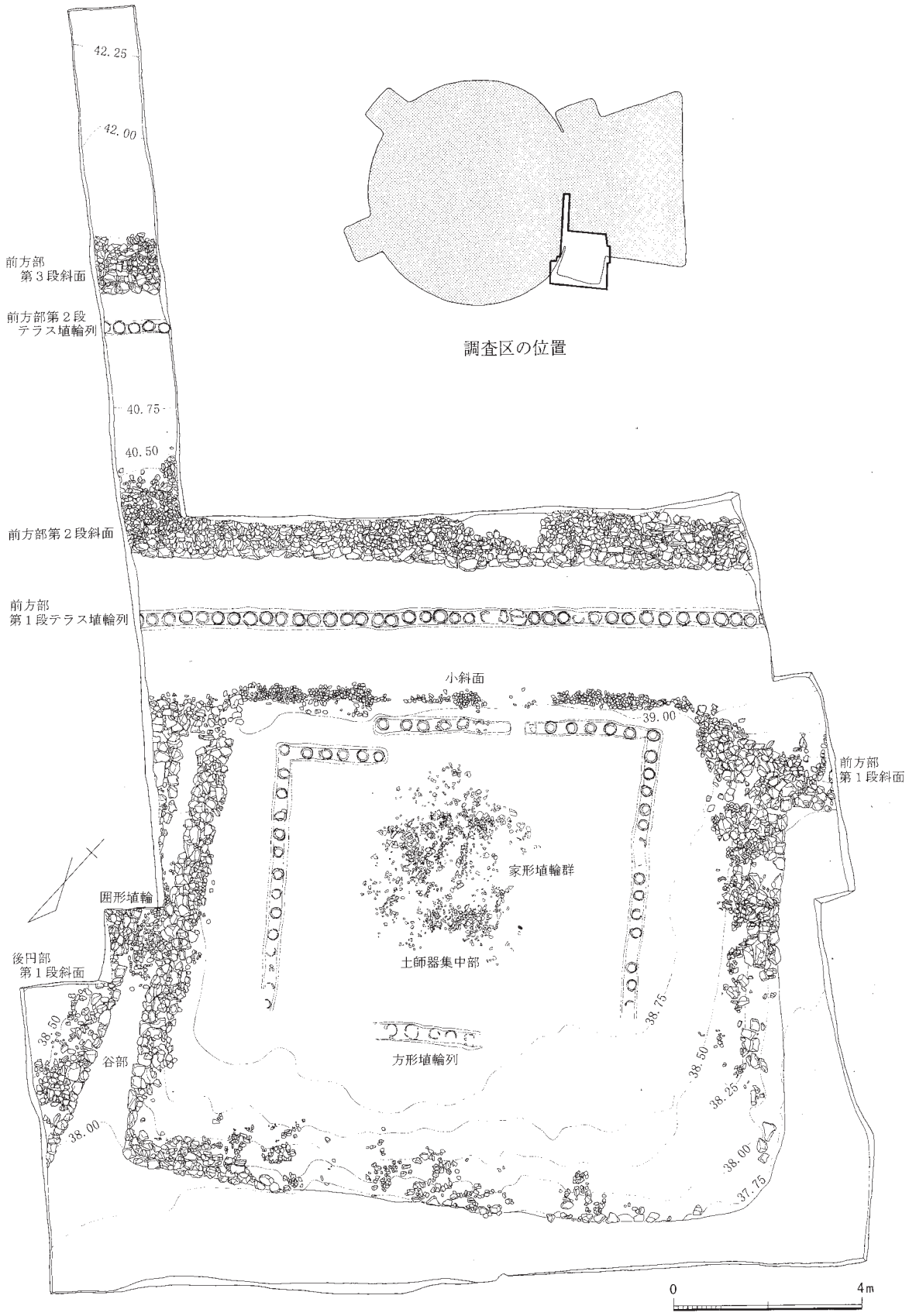
主体部は、中央とその東側、西側の合計３基が横に並ぶが、それぞれ粘土槨の上面を一部検出したのみで調査を終了したため、規模や棺内の副葬品等については不明である。東槨のみ、後世の削平等の影響により比較的広く調査され、全長8.5ｍ×幅1.2ｍに復元できた。また、攪乱を除去した際には革製盾が出土し、他にも鉄剣や鉄刀が粘土槨の肩部から出土した。中央に位置する粘土槨は、レーダー探査では長さ約7.5ｍと推定され、西槨は長さ５ｍ×幅１ｍ程度と推測されている。



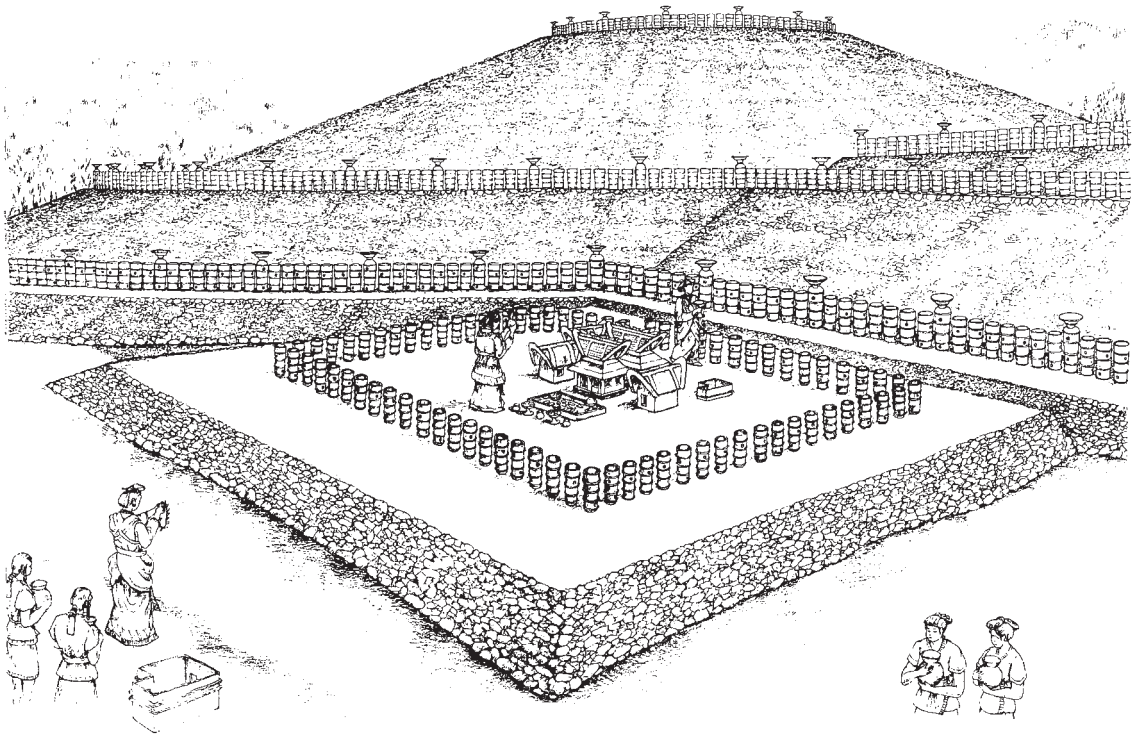

第５図　行者塚古墳調査区配置図



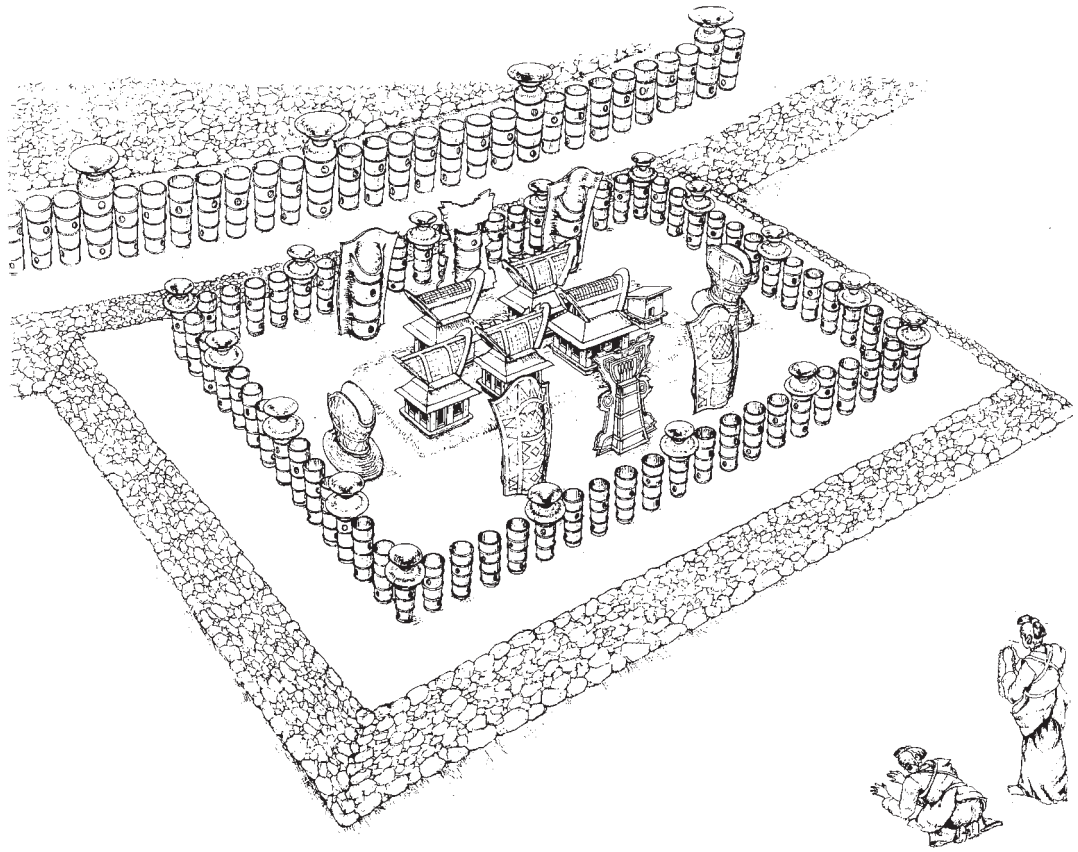
第６図　行者塚古墳墳丘復元図



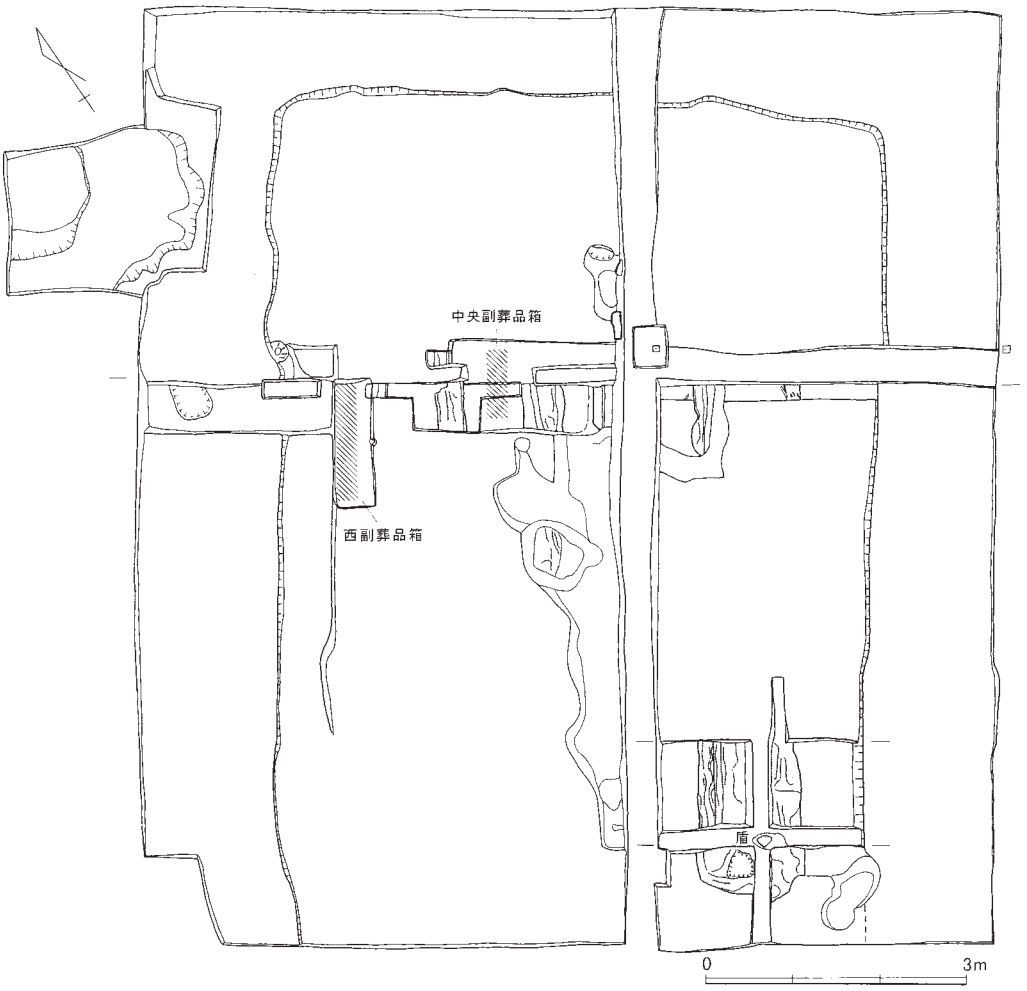

第７図　西造り出し平面図



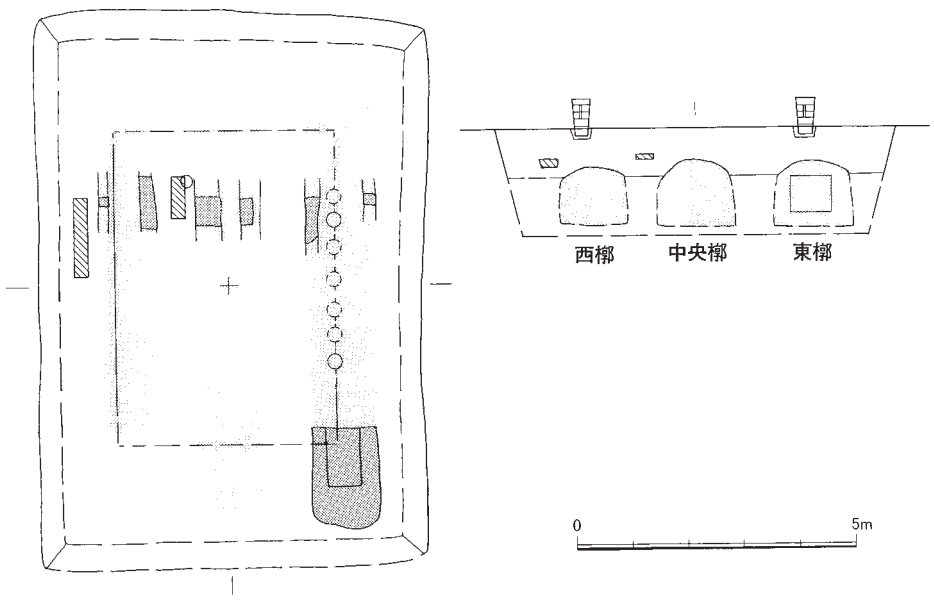
第８図　西造り出し復元イメージ（小東憲朗氏作）



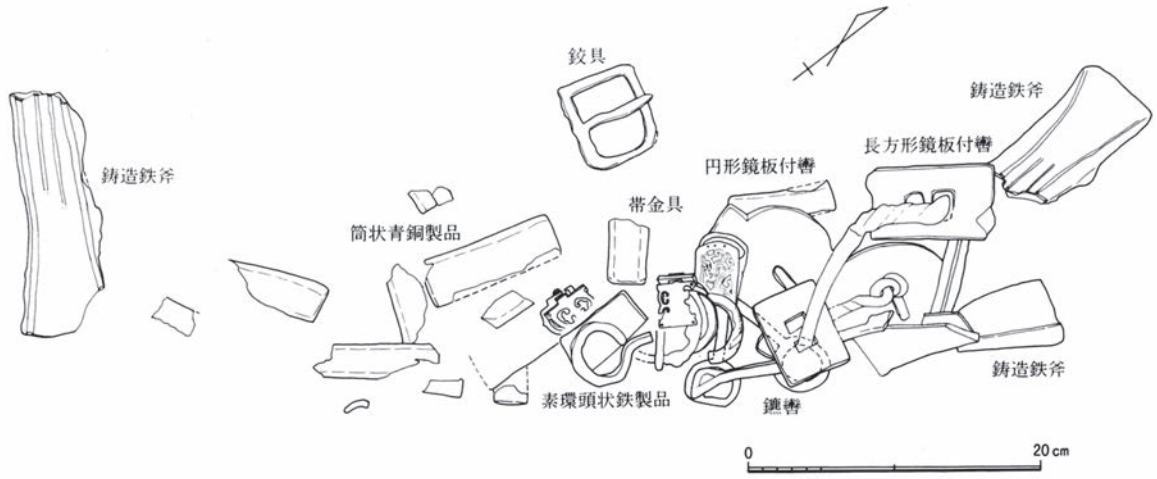
第９図　北東造り出し復元イメージ（小東憲朗氏作）



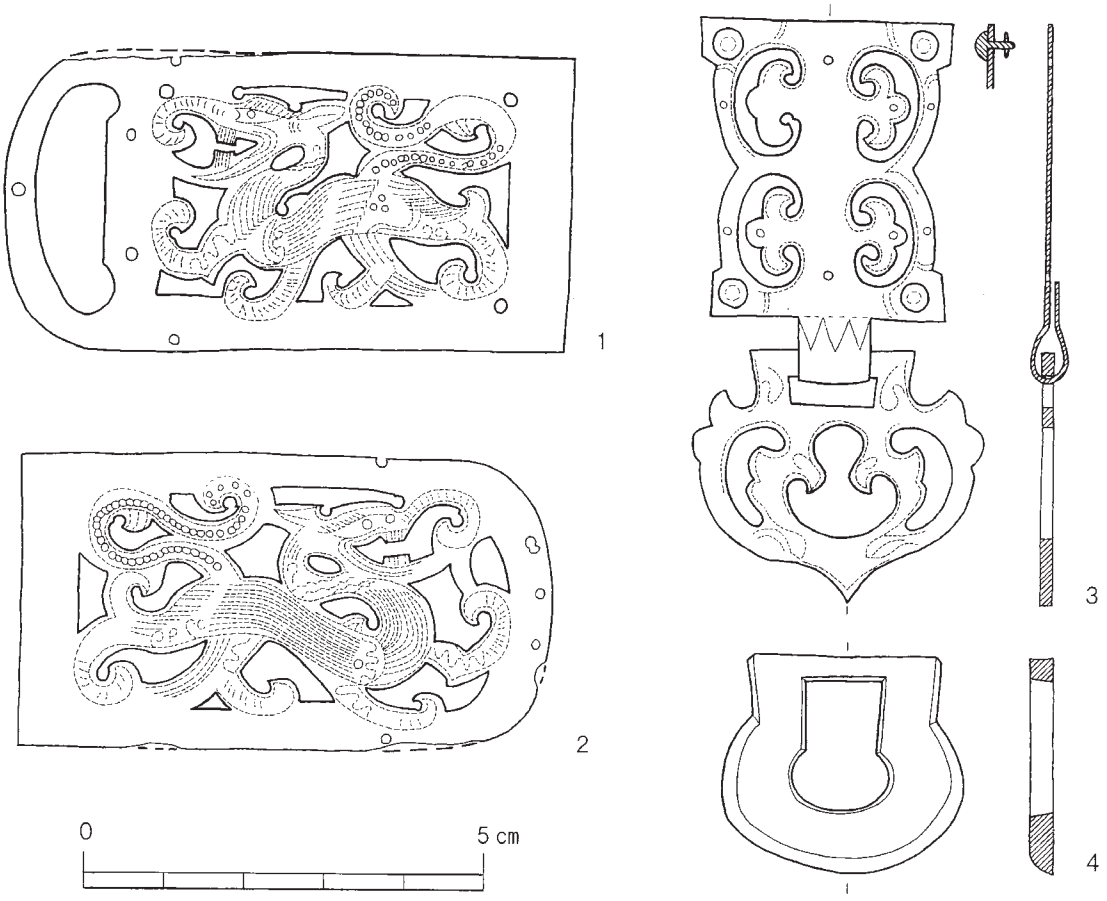

第10図　墳頂部平面図



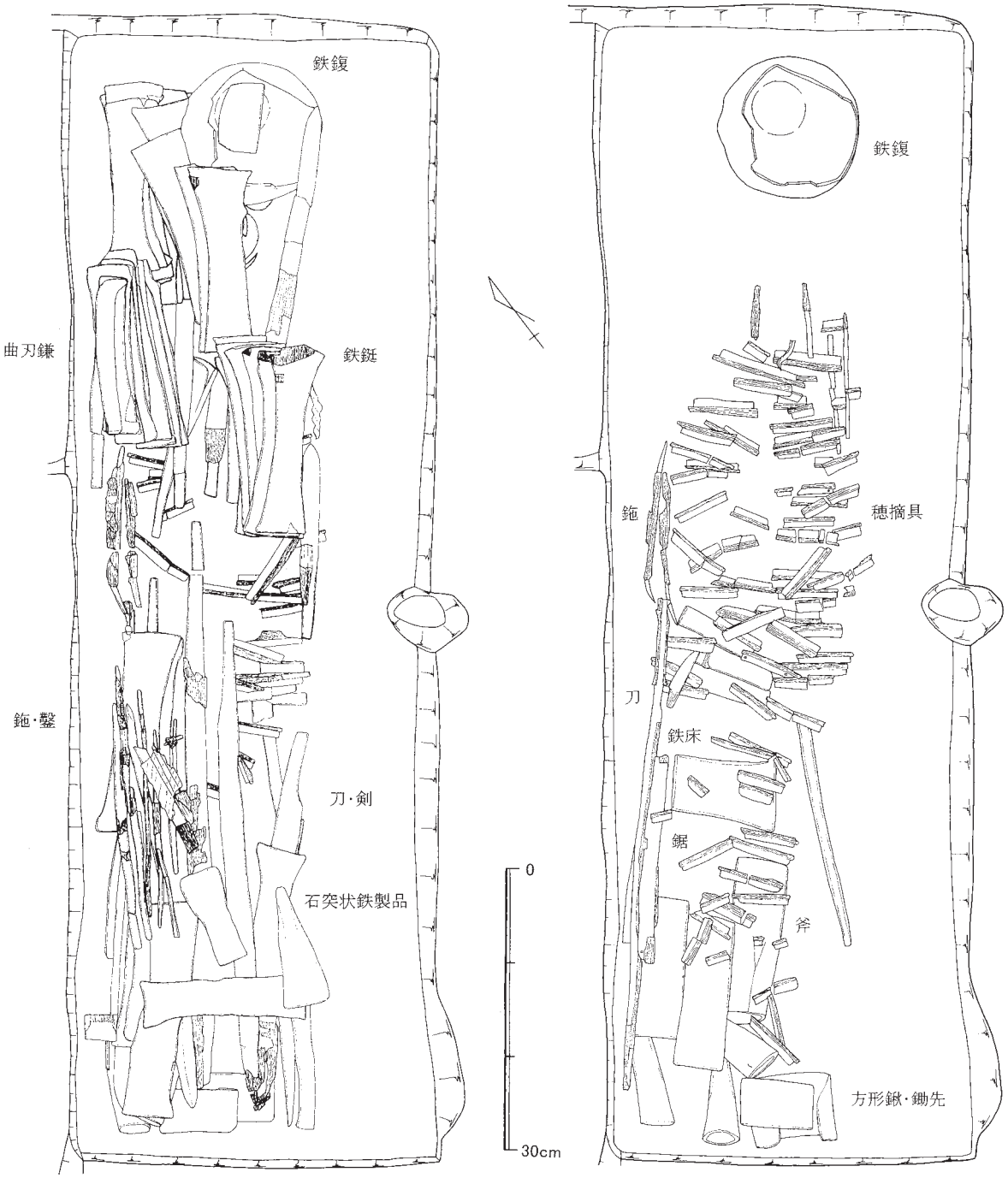

第11図　墳頂部復元図




第12図　中央副葬品箱平面図




第13図　帯金具実測図




第14図　西副葬品箱平面図

第15図　行者塚古墳空中写真（上が北）

第16図　後円部西側調査区全景（西から）

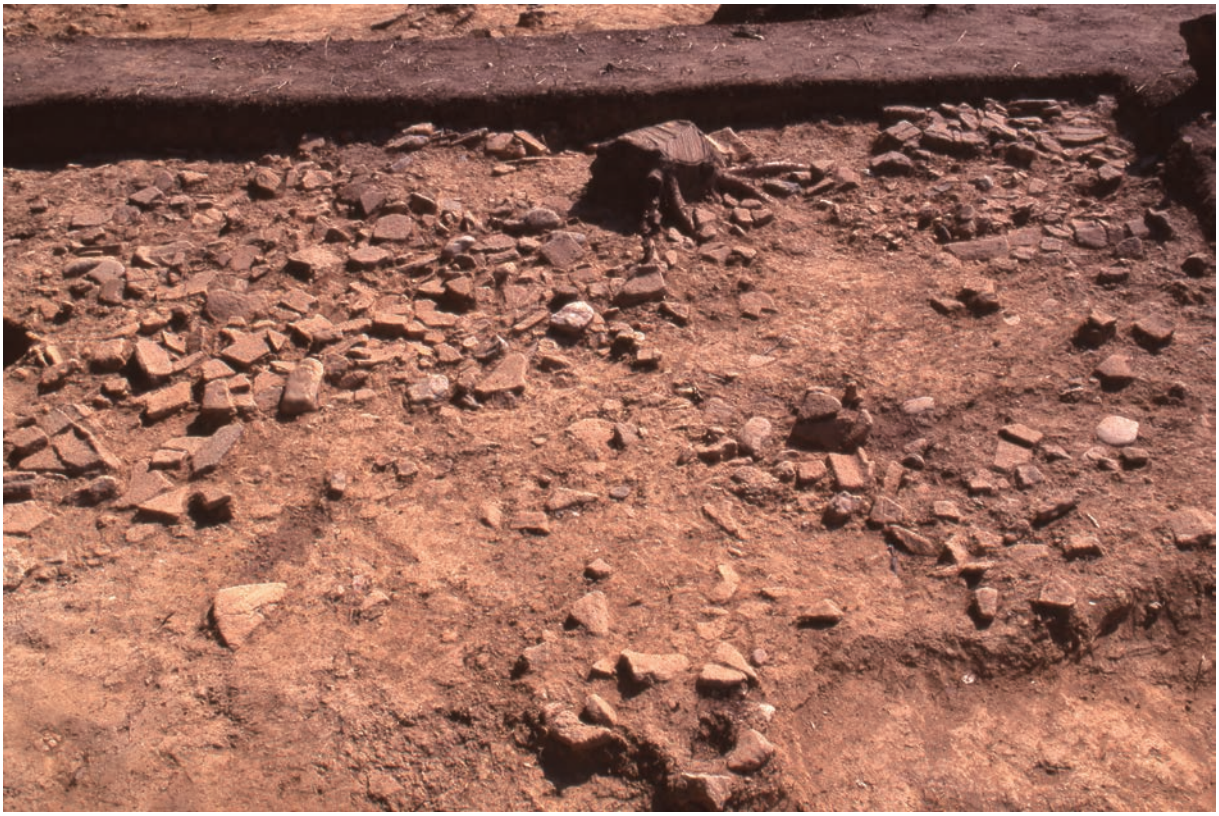
第17図　後円部東側調査区全景（東から）

第18図　後円部南側調査区全景（南から）

**第19図　西造り出し全景**（北西から）

第20図　西造り出し全景（東から）

第21図　西造り出し出土の円筒埴輪・壺形埴輪



第22図　西造り出し家形埴輪出土状況

第23図　西造り出し出土の入母屋式家形埴輪

第24図　西造り出し供物形土製品・土師器出土状況



第25図　西造り出し出土の供物形土製品・土師器

第26図　西側谷部の囲形埴輪出土状況

第27図　西側谷部出土の囲形埴輪

第28図　北西造り出し埴輪例（北から）



第29図　刺突文のある土器

第30図　北東造り出し全景（南東から）

第31図　北東造り出し埴輪検出状況（東から）

第32図　北東造り出し出土の
片流れ式家形埴輪

第33図　北東造り出し出土の
入母屋式家形埴輪

第34図　北東造り出し出土の
切妻式家形埴輪

第35図　北東造り出し出土の盾形埴輪

第36図　北東造り出し出土の靫形埴輪

第37図　北東造り出し出土の甲冑形埴輪

**第38図　東くびれ部全景**（南東から）

第39図　東くびれ部第１段平坦面（北東から）

第40図　東くびれ部出土の円筒埴輪

第41図　東側谷部の囲形埴輪と家形埴輪出土状況

第42図　東側谷部出土の囲形埴輪と家形埴輪

第43図　墳頂部墓壙検出状況（南から）

第44図　墳頂部副葬品箱検出状況（南から）

第45図　墳頂部出土の鰭付円筒埴輪

**第46図　中央副葬品箱遺物出土状況**（南から）

第47図　帯金具出土状況

第48図　中央副葬品箱出土の帯金具

**第49図　西副葬品箱遺物出土状況**（南から）

第50図　西副葬品箱出土の巴形銅器

第51図　西副葬品箱出土の鉄鋌

第52図　西副葬品箱出土の穂摘具・鎌・鍬鋤先

## 第２節　人塚古墳

**調査経過**　人塚古墳の発掘調査は、加古川市教育委員会が主体となって実施し、平成14年度、19年度の予備的な調査を経て、平成20年度、22年度、25年度に調査場所を変えながら行った。

調査の目的は、史跡整備を実施するための基礎となる情報を得ることであり、主に墳形、構造、規模、周濠の有無や形状を調べることを主眼とした。

発掘調査は合計９箇所の調査区で実施した。平成14年度は周濠部分の調査、平成19年度は削平され長年露出していた突出部の崖面観察調査、平成20年度は円丘部のトレンチ調査、平成22年度は突出部とのくびれ部の調査、平成25年度は22年度の反対側におけるくびれ部の調査である。主体部の調査は実施していない。

発掘調査の結果、当初目的としていた史跡整備に必要な情報をおおよそ得ることができた。以下に、発掘調査の結果について概要を述べる。

**調査成果**　調査により、人塚古墳は従来指摘されてきたとおり、南西側に突出部を持つ「造り出し付円墳」ないし「帆立貝式古墳」で、新たに西側にも小型の突出部（造り出し）を伴う可能性があることがわかった。また、古墳の外縁には周濠が巡っていたことが確かめられた。墳丘北東側の調査区では奈良時代の瓦窯跡なども検出され、人塚古墳と隣接する西条廃寺へ供給する瓦を焼成していたことがわかった。

墳丘の全長は、昭和42(1967)年に突出部が削平されているため不明であるが、円丘部の径は61.5ｍ、高さは10.4ｍを測る。２段築成で、第１段の高さは4.1ｍである。第１段と同じ高さに取りつく大型の突出部は、幅32ｍで南西側に向けて延びる様子を確認できたが、削平されているため長さはわからない。その北側に隣り合って設置された小型の突出部（造り出し）は、幅13.5ｍ、高さ1.2ｍを測る。部分的な検出のため長さは不明である。第１段の斜面には突出部を含めて葺石が確認されず、第２段の斜面にのみ葺いていた。石材は、基底石と区画石列に「竜山石」を用い、それ以外は川原石を中心に使用していた。区画石列は約６ｍ間隔で縦に並べられていたと考えられる。

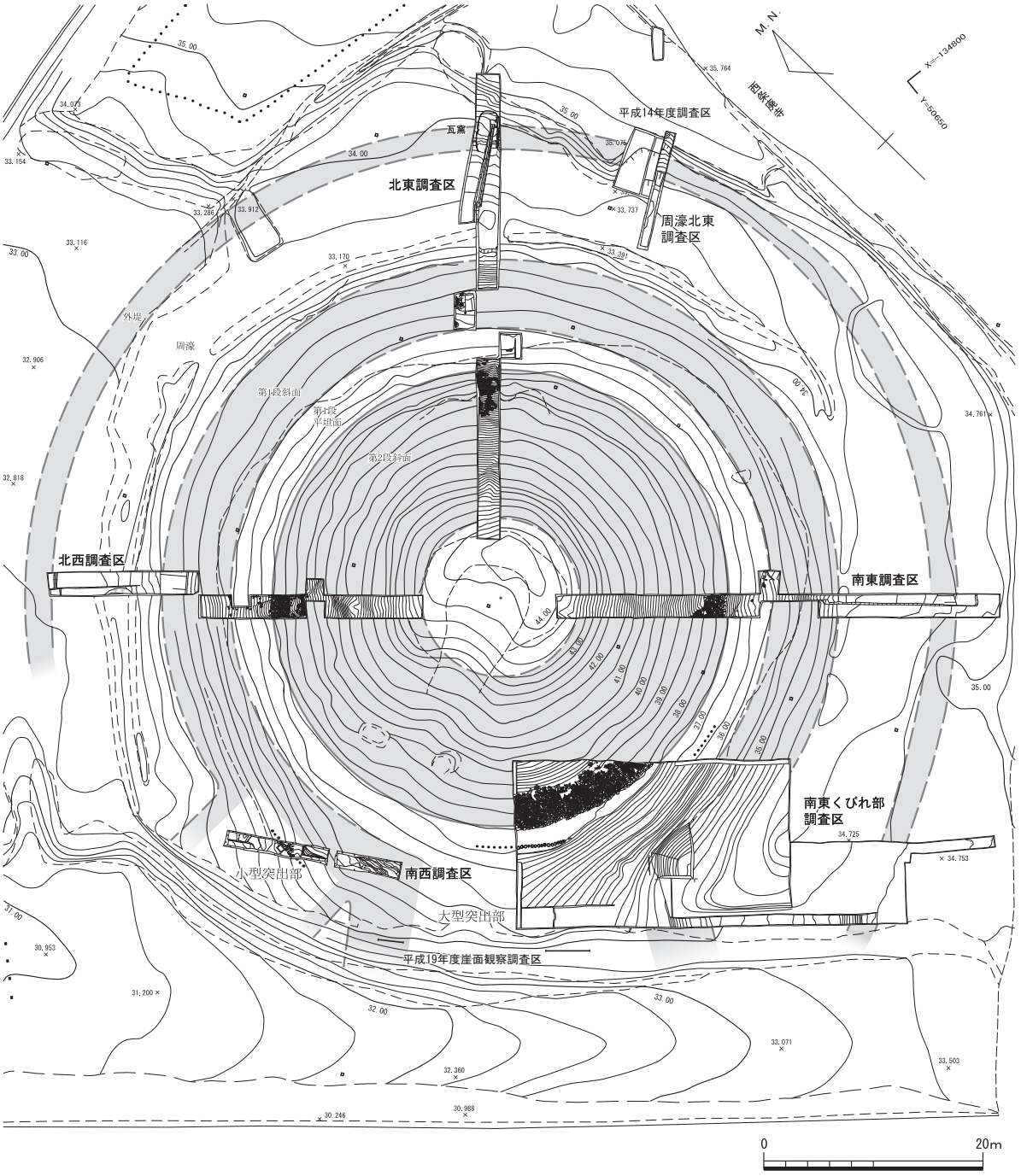
第１段の平坦面上には円筒埴輪列が巡るが、大部分は墳丘の流出により原位置を留めていなかった。突出部とのくびれ部で埴輪列が確認されており、その配置から突出部へは巡っていなかったことがわかった。平坦面の幅は約3.2ｍと復元され、埴輪列はその中央を巡っていたと考えられる。他に、西側の小型突出部（造り出し）でも埴輪列が確認されており、方形埴輪列の可能性がある。埴輪の据えられている面は、墳丘第１段平坦面や大型の突出部上面より2.7ｍ低い。円筒埴輪以外では、墳頂や突出部からの転落と考えられる家形埴輪、靫形埴輪、盾形埴輪、蓋形埴輪、鶏形埴輪の小片が出土した。円筒埴輪には黒斑が認められることから、野焼き焼成で作られたものと考えられる。

周濠は、幅約10ｍで、深さは0.9～1.5ｍ程度と推測され、地山を掘り込んで造られている。

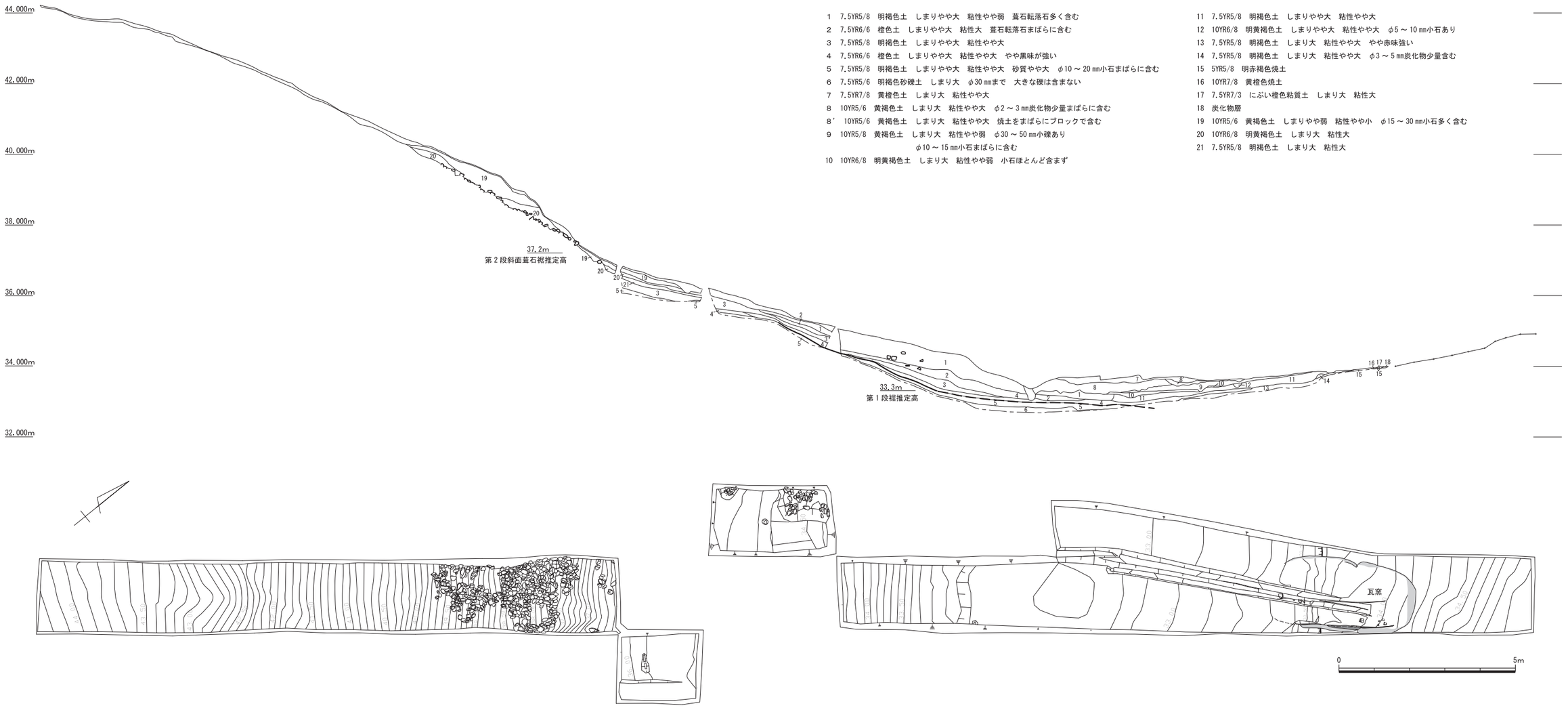
出土した埴輪の特徴から、５世紀前葉の築造と推測される。古墳の構成要素を含めた検討の結果では、行者塚古墳に近い時期のものと判断された。

北東調査区で確認された瓦窯跡については、検出のみに留めたため詳細は不明である。古墳周濠の外側斜面を利用して築かれた半地下式の窖窯で、天井部が崩落した状態で検出された。確認されたのは、燃焼部と焼成部の下半と考えられ、上半部は後世の削平により周濠上部とともに失われていた。検出された範囲での窯体の幅は1.6～1.8ｍを測る。この窯跡については、焼土を用いて考古地磁気年

代決定法による分析が行われている。その結果、窯跡の最終使用年代は西暦750年頃と推定され、出土した瓦の年代とも矛盾しない。




第53図　人塚古墳の調査区配置と墳丘復元図




1　7.5YR5/8　明褐色土　しまりやや大　粘性やや弱　葺石転落石多く含む
2　7.5YR6/6　橙色土　しまりやや大　粘性大　葺石転落石まばらに含む
3　7.5YR5/8　明褐色土　しまりやや大　粘性やや大
4　7.5YR6/6　橙色土　しまりやや大　粘性やや大　やや黒味が強い
5　7.5YR5/8　明褐色土　しまりやや大　粘性やや大　砂質やや大　φ10～20㎜小石まばらに含む
6　7.5YR5/6　明褐色砂礫土　しまり大　φ30㎜まで　大きな礫は含まない
7　7.5YR7/8　黄橙色土　しまり大　粘性やや大
8　10YR5/6　黄褐色土　しまり大　粘性やや大　φ2～3㎜炭化物少量まばらに含む
8'　10YR5/6　黄褐色土　しまり大　粘性やや大　焼土をまばらにブロックで含む
9　10YR5/8　黄褐色土　しまり大　粘性やや弱　φ30～50㎜小礫あり
φ10～15㎜小石まばらに含む
10　10YR6/8　明黄褐色土　しまり大　粘性やや弱　小石ほとんど含まず
11　7.5YR5/8　明褐色土　しまりやや大　粘性やや大
12　10YR6/8　明黄褐色土　しまりやや大　粘性やや大　φ5～10㎜小石あり
13　7.5YR5/8　明褐色土　しまり大　粘性やや大　やや赤味強い
14　7.5YR5/8　明褐色土　しまり大　粘性やや大　φ3～5㎜炭化物少量含む
15　5YR5/8　明赤褐色焼土
16　10YR7/8　黄橙色焼土
17　7.5YR7/3　にぶい橙色粘質土　しまり大　粘性大
18　炭化物層
19　10YR5/6　黄褐色土　しまりやや弱　粘性やや小　φ15～30㎜小石多く含む
20　10YR6/8　明黄褐色土　しまり大　粘性大
21　7.5YR5/8　明褐色土　しまり大　粘性大

第54図　北東調査区平面及び断面図

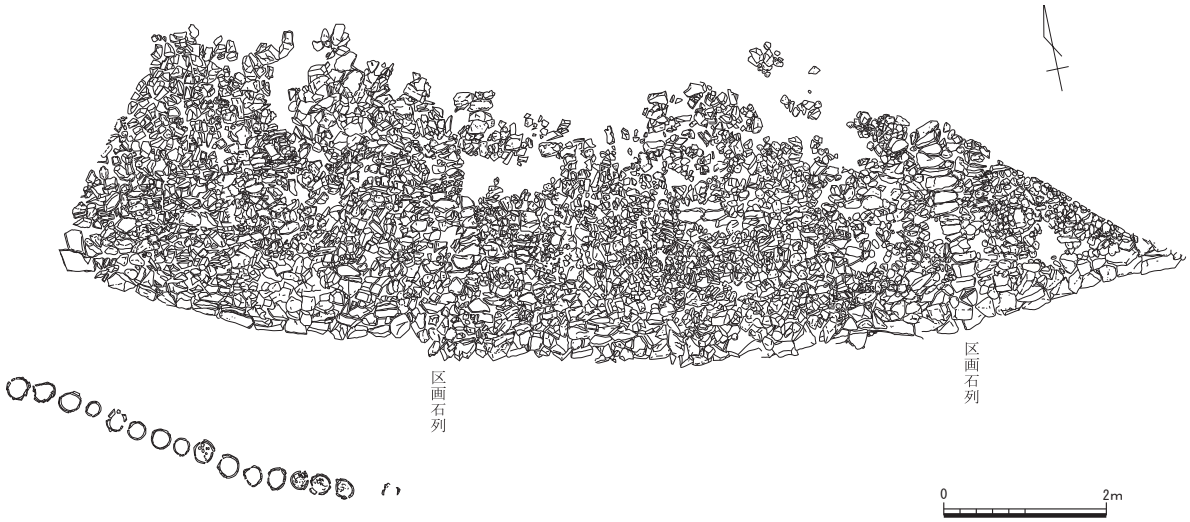
北壁土層名
1　表土（腐植土）
2　浅黄色砂質土層
3　明黄褐色砂質土層　φ50㎜以下の礫や滑落した葺石を含む
4　浅黄色砂質土層　φ50㎜以下の礫や滑落した葺石を大量に含む
5　明赤褐色砂質土層　（流土）
6　灰黄色砂質土層　φ50㎜以下の礫多く含む　埴輪片含む（埋土）
7　明赤褐色粘質砂層　φ50㎜以下の礫多く含む（封土の盛土）
8　黄色粘質砂層（封土の盛土）
9　浅黄橙色、黄色混じりの灰白色粘質土層（地山）

西壁土層名
1　表土（腐植土）
2　浅黄色砂質土層
3　浅黄～にぶい黄色砂質土層
5　明黄褐色砂質土層　葺石は含まない
　50cm 以下の小礫多く含む
6　明黄褐色砂質土層　滑落した葺石を含む
　平坦面直上に多量の埴輪片を含む
7　地山
7’　黄橙色粘質土層
8　明黄褐色粘質土層
9　赤褐色粘土層
10　明黄褐色粘質土層
11　灰白色砂質土層
12　黄褐色砂質土層

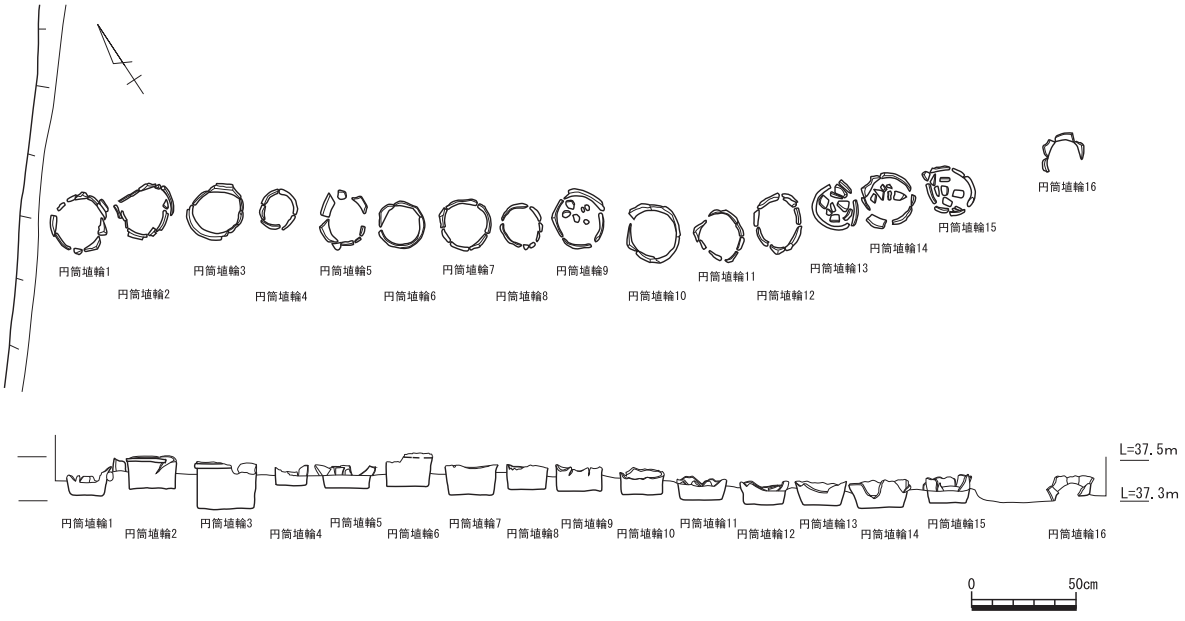
南壁土層図
1　表土（腐植土）
2　浅黄色砂質土（埋土）
3　浅黄～にぶい赤色砂質土（埋土）
4　灰白色土、赤褐色土まじり明黄褐色粘質土（封土）
5　黄褐色砂質土　黒色土含む（封土）
7　灰白色まじり黄色粘土　黒色土含む（地山）
7’　明赤褐色砂質土層　しまりﾁ大　（地山）
8　灰白色砂質土　しまり大
11　黄色砂質土層　赤褐色土・黒褐色土含む（盛土）
12　黒褐色～暗オリーブ褐色砂質土層　礫含む
　黄色土・赤褐色土含む（盛土）
13　明黄褐色砂質土　黒褐色土含む
14　明黄褐色粘質砂層
15　橙色粘質砂層
16　褐色粘質砂層
17　暗褐色砂質土層　炭含む
17　橙色砂質土層　しまりなし
18　黄褐色砂質土層
19　橙色砂質土層　礫含む
20　灰白色まじり明黄褐色砂質土層
21　黄褐色砂質土層　黒色土含む　少し粘る
22　地山
23　明赤褐色砂質土層　しまりない

くびれ部土層名
①　黄褐色砂質土層（礫多く含む）
②　明褐色砂質土層（礫はあまり含まない）
③　褐色粘質砂層（埴輪片大量に含む）
⑦　地山の⑦層　赤色系

第55図　南東くびれ部調査区平面及び断面図

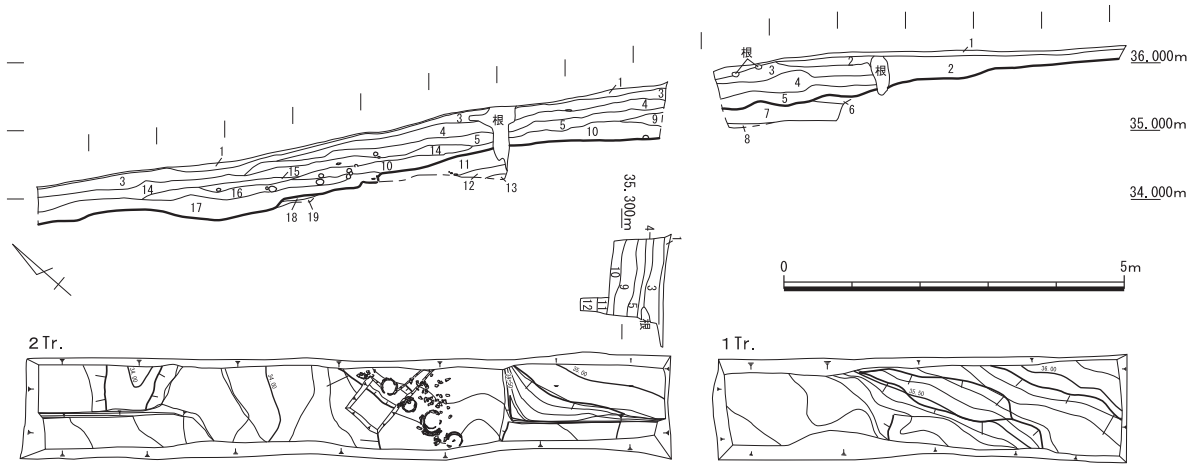



第56図　南東くびれ部調査区葺石平面図

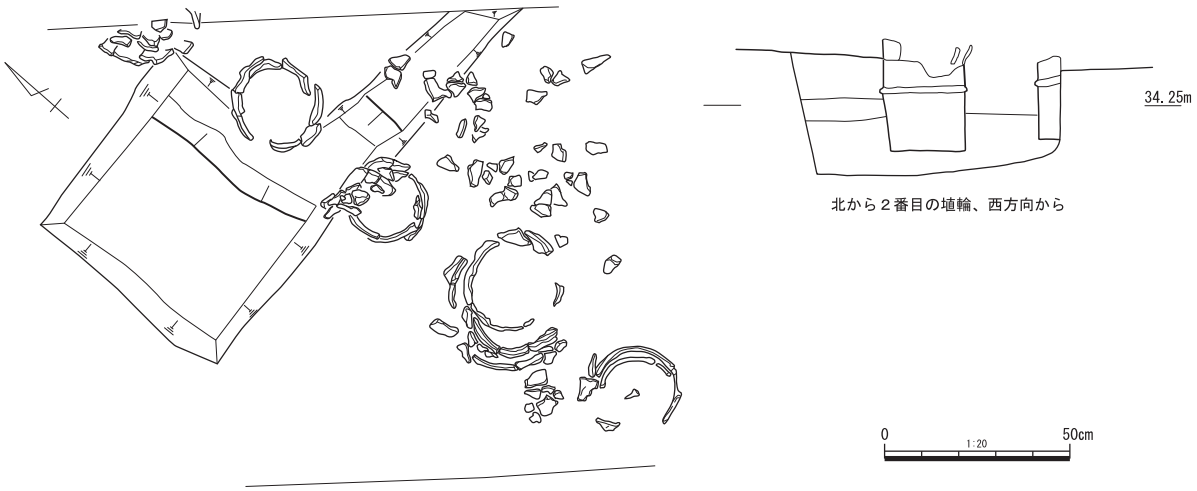



第57図　南東くびれ部調査区埴輪列平面図

1　腐植土・根
2　10YR4/4　褐色　やや粘質あり　φ10 ～ 30㎜ 小石多く含む
3　10YR4/6　褐色　砂質強い　φ10 ～ 30㎜ 小石多く含む
4　10YR5/8　黄褐色　砂質強い　φ10 ～ 30㎜ 小石まばらに含む
5　7.5YR5/8　明褐色　やや粘質あり　φ10 ～ 30㎜ 小石多く含む
6　7.5YR5/8　明褐色　粘質強い　石は含まない
7　10YR6/8　明黄褐色　粘質強い　10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土をブロックで含む
8　10YR5/6　明褐色　粘質土
9　10YR5/8　黄褐色　粘性やや強い　10YR6/4 にぶい黄褐色粘質土をブロックでまばらに含む
10　7.5YR5/8　明褐色　粘性強い
11　10YR5/8　黄褐色　粘性やや強い　10YR6/4 にぶい黄褐色粘質土ブロックをまばらに含む　やや赤味が入る
12　7.5YR5/6　明褐色　しまり弱い
13　5YR5/8　明赤褐色　粘性強い　しまり強い
14　7.5YR5/8　明褐色　しまり弱い　φ10 ～ 20㎜ 小石ごくまばらに含む
15　7.5YR5/8　明褐色　やや粘性あり　しまり弱い
16　10YR5/8　黄褐色　しまり弱い　φ10 ～ 30㎜ 小石多く含む
17　7.5YR5/6　明褐色　しまりやや強い　砂質強い　φ10 ～ 30㎜ 小石まばらに含む
18　7.5YR6/8　橙色　粘性やや強い　しまりやや弱い
19　7.5YR5/8　明褐色　砂質土　しまり非常に強い　地山

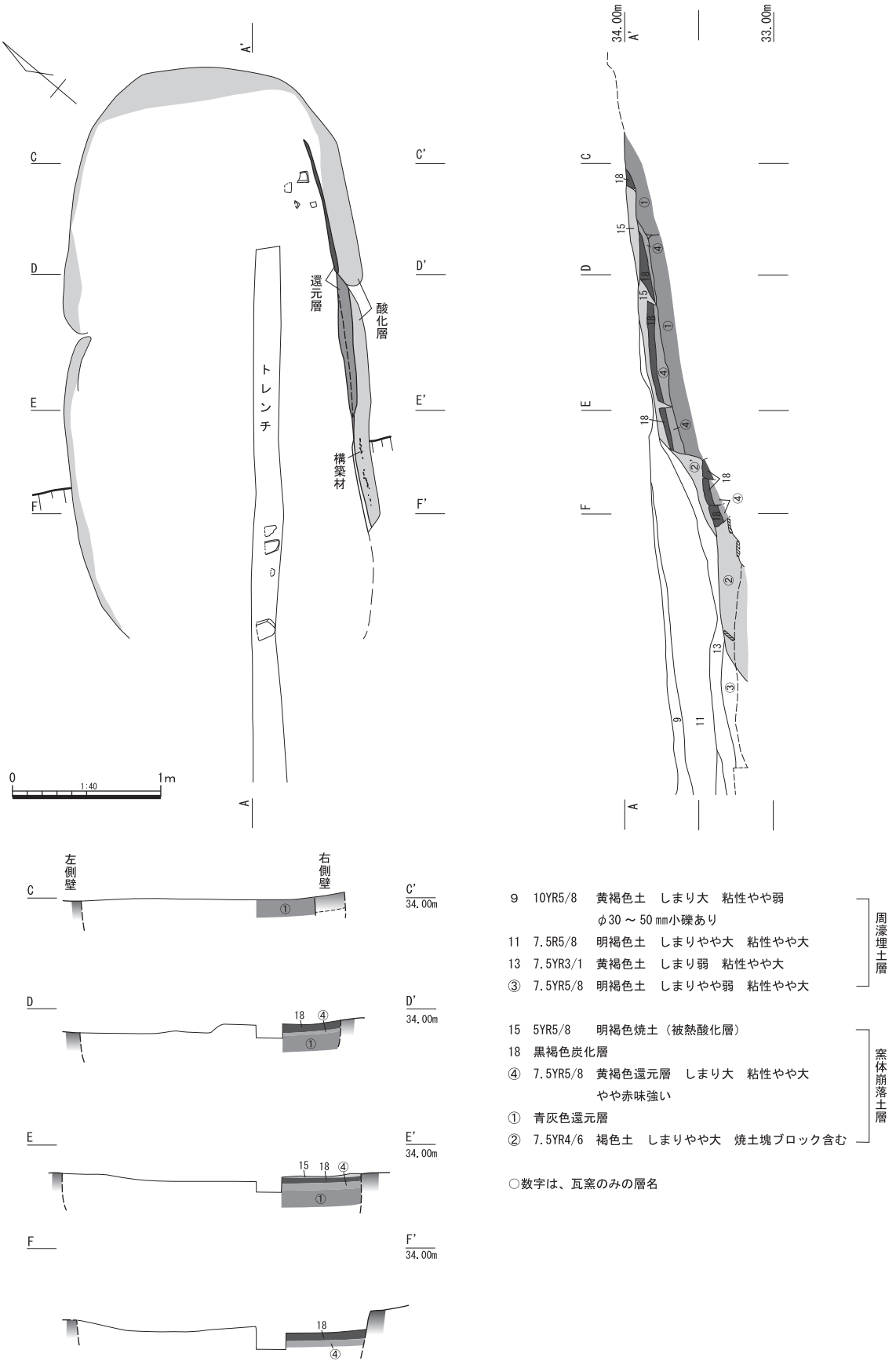



第58図　南西調査区平面及び断面図




北から２番目の埴輪、西方向から

第59図　南西調査区埴輪列平面図




第60図　北東調査区にて検出された瓦窯跡

第61図　人塚古墳空中写真（南東から）

第62図　人塚古墳全景（東から）

第63図　北西調査区（北西から）

第64図　北西調査区葺石検出状況（西から）

第65図　南東くびれ部調査区全景（南から）

第66図　南東くびれ部調査区葺石検出状況（南から）

第67図　区画石列検出状況（南から）

第68図　南東くびれ部調査区埴輪列（西から）

第69図　南東くびれ部調査区埴輪列（北から）

**第70図　南西調査区埴輪列**（北西から）

第71図　南西調査区埴輪列検出状況（北西から）

第72図　南西調査区埴輪列断ち割り（西から）

第73図　人塚古墳出土の円筒埴輪

第74図　人塚古墳出土の形象埴輪

第75図　瓦窯跡検出状況（南西から）

第76図　瓦窯跡近景（南東から）

第77図　瓦窯跡から出土した瓦（凹面）

第78図　瓦窯跡から出土した瓦（凸面）

## 第３節　尼塚古墳

**調査経過**　尼塚古墳の発掘調査は、平成18(2006)年２月から３月にかけて、加古川市教育委員会によって実施された。

発掘調査は、史跡整備に必要となる墳丘の形状と規模の把握に重点を置き、最小限の調査で必要な情報を網羅することを目的に実施した。

調査区は４箇所設定し、北調査区と東調査区は墳丘の段築構造や周濠幅を確認すること、西調査区は墳丘の裾を確認すること、造り出し調査区はくびれ部から突出部の西辺を確認することを目標に設定した。主体部の調査は実施していない。

発掘調査の結果、当初目的としていた史跡整備に必要な情報を十分に得ることができた。以下に、発掘調査の結果について概要を述べる。

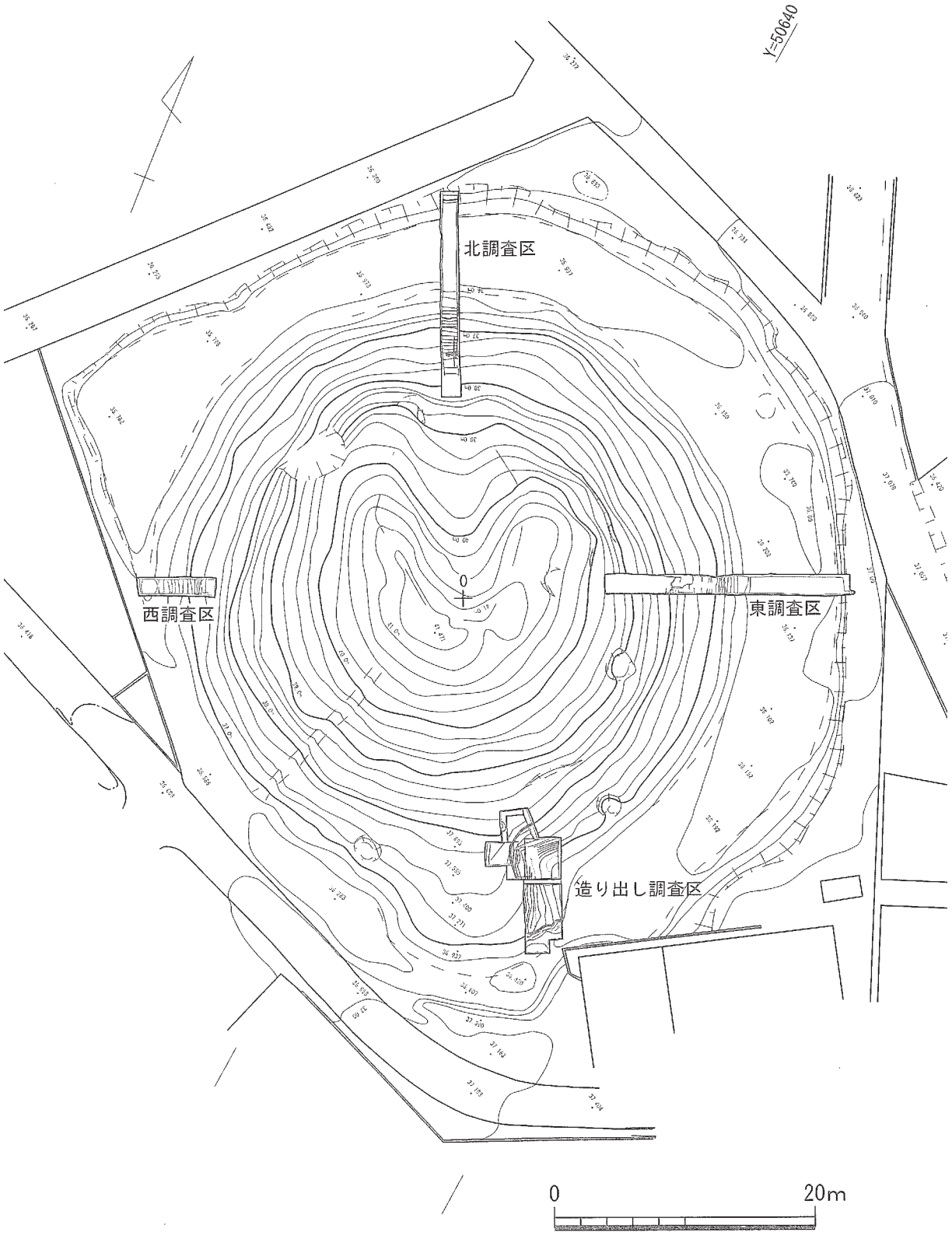
**調査成果**　調査により、尼塚古墳は従来指摘されてきたとおり、南側に突出部を持つ「造り出し付円墳」ないし「帆立貝式古墳」で、周りには周濠が巡っていたことが確かめられた。

墳丘の全長は51ｍに復元でき、円丘部の径は45ｍ、高さは６ｍを測る。２段築成で、第１段の高さは1.5～1.7ｍである。第１段と同じ高さに取りつく突出部（造り出し）は、長辺13ｍ、短辺７ｍに復元できた。第１段の斜面には、人塚古墳と同様に突出部を含め葺石が確認されず、第２段の斜面にのみ葺いていた。石材は基底石のみ「竜山石」を用い、それ以外は川原石を使用していた。

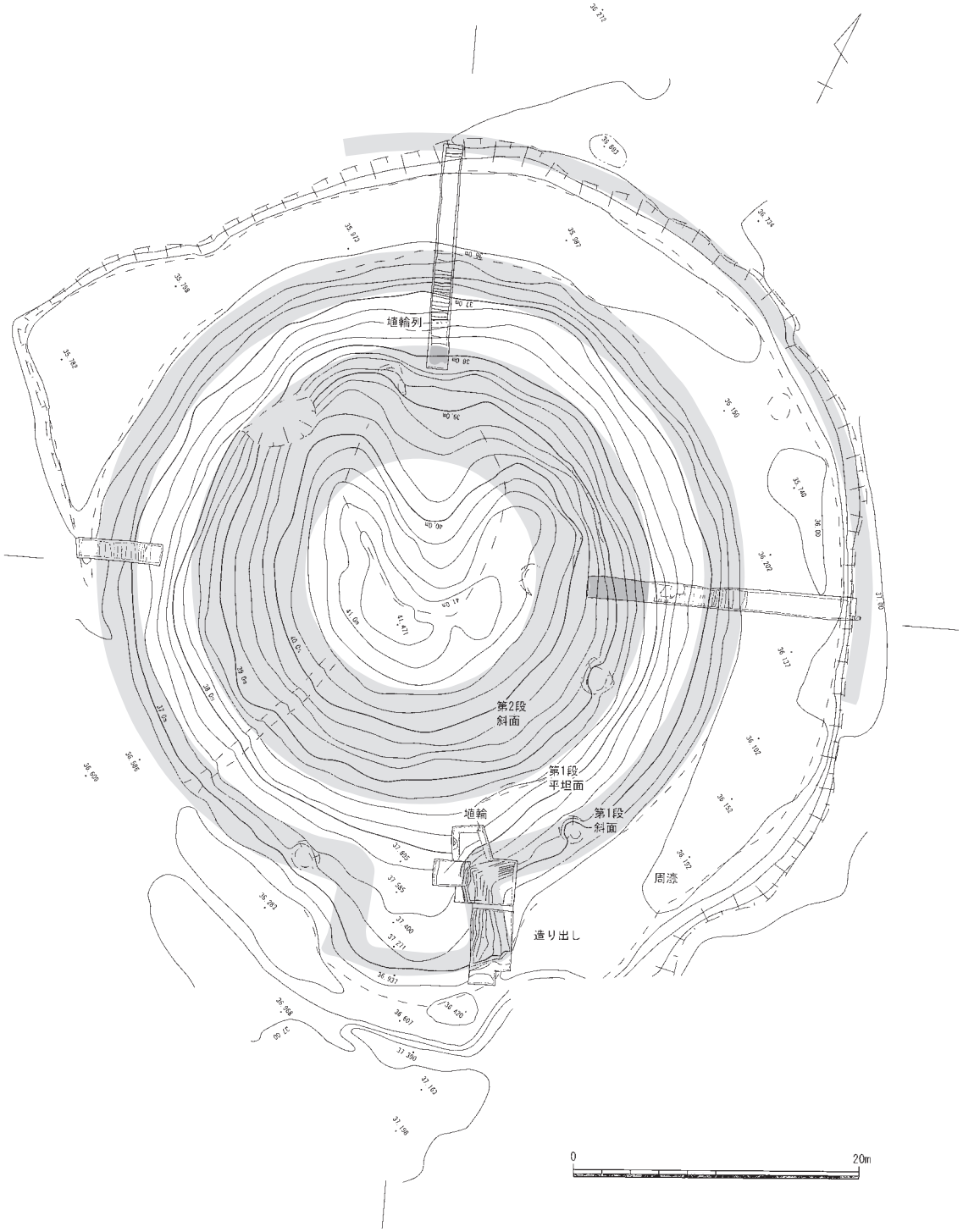
第１段の平坦面上には円筒埴輪列が巡るが、突出部まで巡っていたかは不明である。埴輪列の設置においては、埴輪を並べた後に平坦面全体に盛土をすることによって固定するという方法が採用されていた。また、突出部も同様の盛土堆積が認められたことから、突出部を含めた古墳の形状が当初から計画され、同時に築造されたことが判明した。突出部の調査では、墳丘の流出が著しいため円筒埴輪列の有無は確認できなかったが、少量の蓋形埴輪が出土した。円筒埴輪を含めすべての埴輪には黒斑が認められないことから窖窯焼成で作られたものと考えられる。

周濠は、幅７～８ｍで、深さ0.4ｍを測る。周濠外側に盛土を確認したことから、外堤を備えていた可能性がある。

出土した埴輪の特徴から、５世紀中葉の築造と推測される。

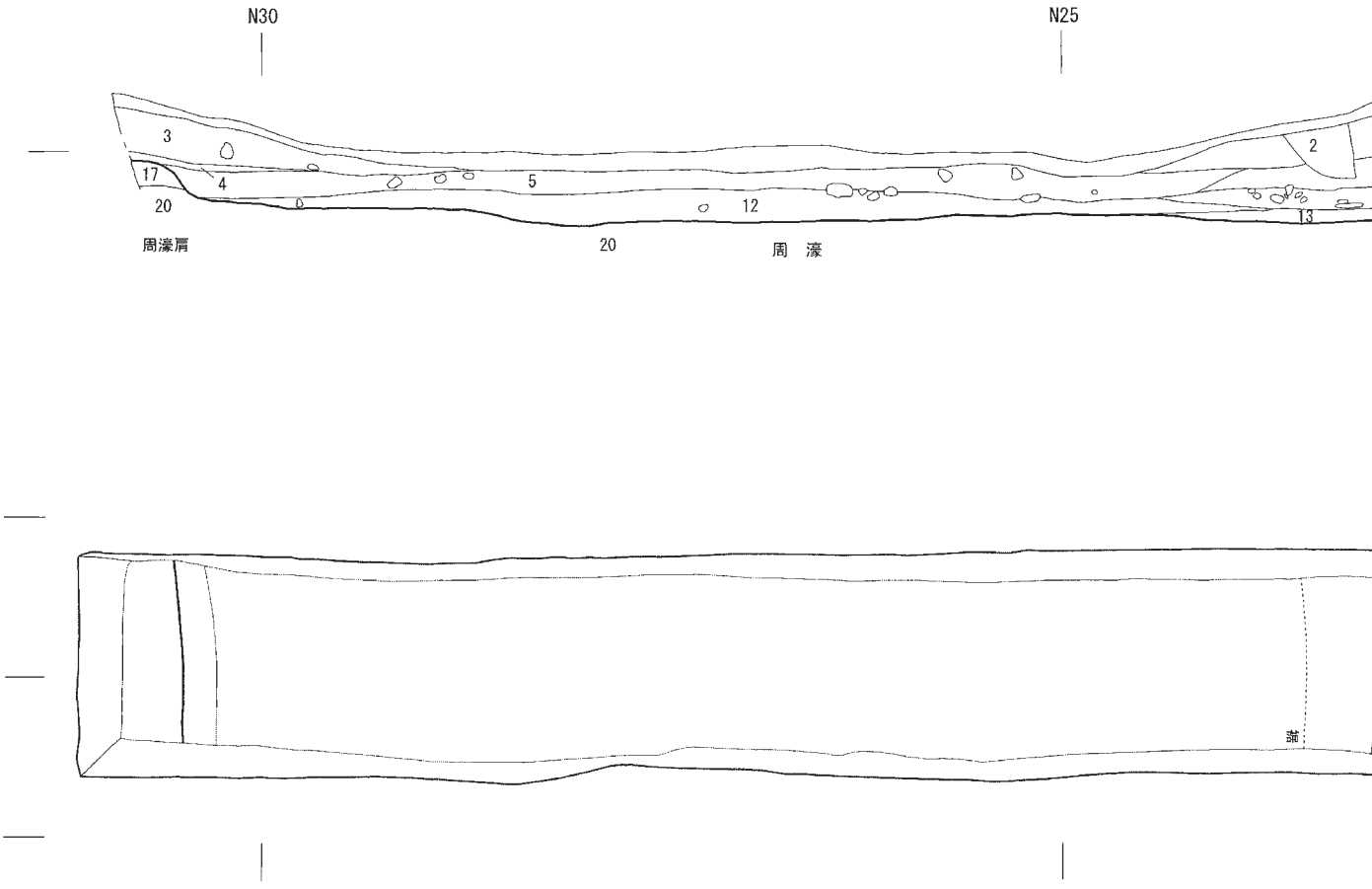



第79図　尼塚古墳調査区配置図

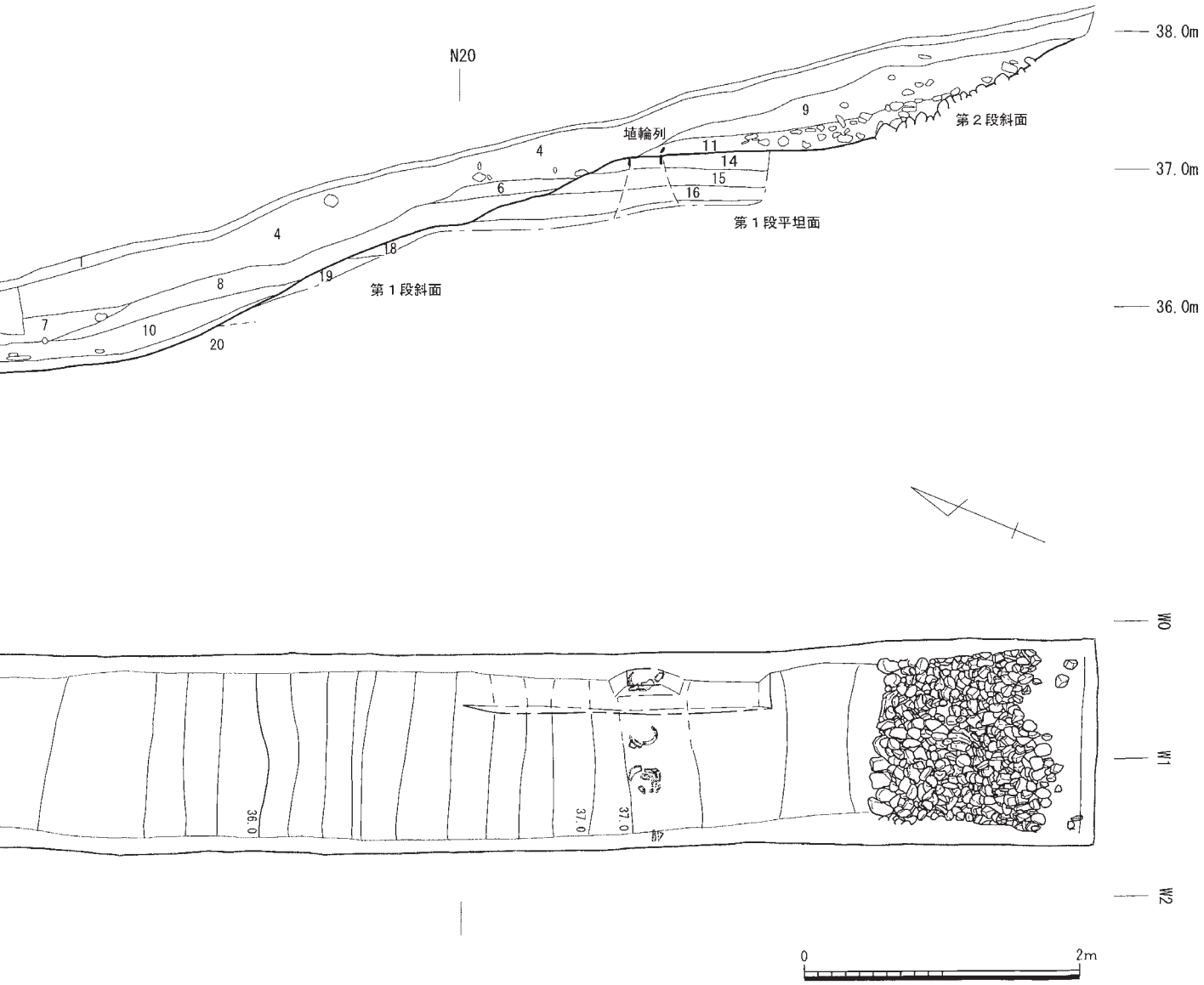


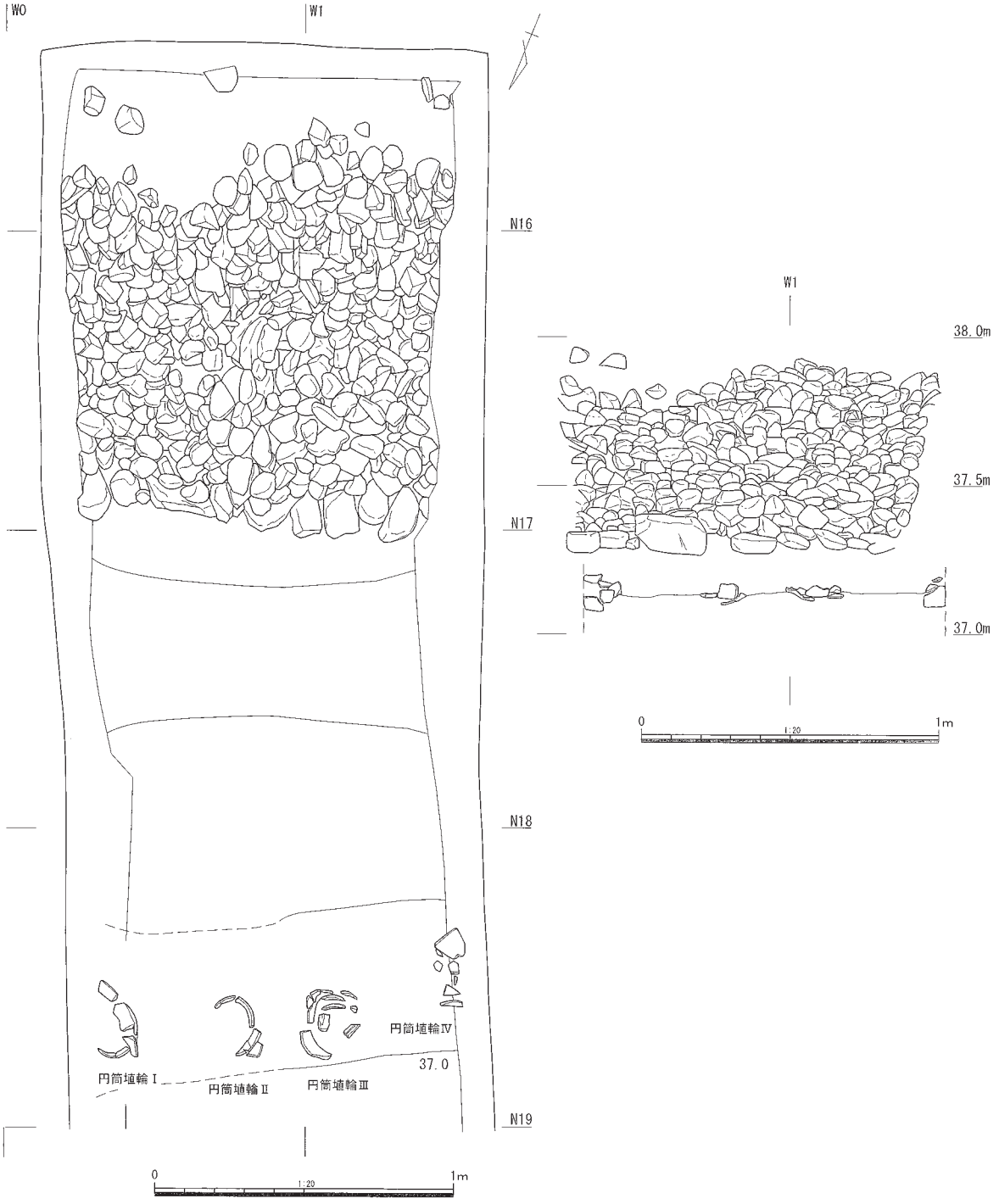

第80図　尼塚古墳墳丘復元図

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 表土 | | | | | |
| 2 | 撹乱土 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 砂質土 | 締まり弱 | |
| 3 | 客土 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂質土 | 締まり弱 | 転落石及びφ3cm程の円礫、近年の廃棄物を含む。 |
| 4 | 流土 | 10YR7/6 | 明黄褐色 | 砂質土 | 締まり強 | 転落石及びφ1～3mmの白色粒を含む。 |
| 5 | 流土 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 粘質土 | 締まり強 | 転落石を非常に多く含む。 |
| 6 | 流土 | 7.5YR6/8 | 橙色 | 砂質土 | 締まりやや弱 | φ1～3cmの円礫を多く含む。 |
| 7 | 流土 | 10YR7/8 | 黄橙色 | 砂質土 | 締まり強 | 埴輪片を少量含む。 |
| 8 | 流土 | 10YR6/8 | 明黄褐色 | 粘質土 | 締まりやや弱 | |
| 9 | 流土 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | 砂質土 | 締まりやや強 | 転落石を少量含む。 |
| 10 | 流土 | 10YR5/8 | 黄褐色 | 粘質土 | 締まり弱 | 転落石及び埴輪片を多く含む。 |
| 11 | 流土 | 10YR6/8 | 明黄褐色 | 粘質土 | 締まりやや弱 | 転落石及び埴輪片を多く含む。 |
| 12 | 流土 | 10YR6/8 | 明黄褐色 | 砂質土 | 締まりやや強 | φ2～3cmの円礫を含む。 |
| 13 | 流土 | 10YR6/8 | 明黄褐色 | 粘質土 | 締まり弱 | 埴輪片を少量含む。 |
| 14 | 盛土 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | 粘質土 | 締まりやや強 | 明赤褐色（5YR5/8）の粘土ブロックを斑状に含む。 |
| 15 | 盛土 | 10YR5/8 | 黄褐色 | 粘質土 | 締まりやや弱 | 黒色粒（炭？）を含む。 |
| 16 | 盛土 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | 粘質土 | 締まりやや強 | |
| 17 | 盛土 | 10YR5/8 | 黄褐色 | 砂質土 | 締まりやや弱 | |
| 18 | 地山 | 10YR6/8 | 明黄褐色 | 粘質土 | 締まり強 | 明褐色（7.5YR5/8）の粘土ブロックを斑状に含む。 |
| 19 | 地山 | | | | | |
| 20 | 地山 | 10YR6/8 | 明黄褐色 | 粘質土 | 締まり強 | φ2～8cmの角礫、明赤褐色（2.5YR5/8）と黄橙色（10YR7/8）の粘土ブロックを含む。 |




第81図　北調査区平面及び断面図


N20
38.0m
37.0m
36.0m
埴輪列
第２段斜面
第１段平坦面
第１段斜面
1
4
6
7
8
9
10
11
14
15
16
18
19
20
W0
W1
W2
36.0
37.0
37.0
0
2m




第82図　北調査区葺石・埴輪列平面及び立面図

第83図　尼塚古墳空中写真（南西から）

**第84図　北調査区全景**（北西から）

第85図　北調査区葺石・埴輪列検出状況（北西から）

第86図　北調査区埴輪列（北西から）

**第87図　東調査区全景**（南東から）

**第88図　東調査区葺石検出状況**（北東から）

第89図　尼塚古墳出土の円筒埴輪

第90図　尼塚古墳出土の線刻入円筒埴輪